



えんのスタッフたち

いつもならこの季節は、ブドウ狩り、『みんなのコンサート』、ヤキイモタイムなどお楽しみの行事が目白押しですが、今年はどれも中止か縮小、寂しい秋です。

世の中は『Gotoキャンペーン』とかでコロナウイルスはどこかに行ったかのような賑わいですが、介護の現場はそうはいきません。2月末以来、「感染しない、感染させない」を合言葉に働き続けています。フランスなどでは再度外出制限が始まったと言いますが、日本もまだまだ気が抜けない状況です。とはいえ、あまり思い詰めてもよくない。適度な息抜きをしながら、収束の日まで心身の健康を保ちましょう。

今回は職場としてのえんについて少し。介護保険と障がい者福祉サービス、配食サービス、今年度後半から基幹相談支援センターも加わって、職員総数は100名を超えます。20代から70代まで、介護職員、看護師、理学療法士、ケアマネジャー、相談支援員、栄養士、調理師、ドライバー、事務、こうやって並べてみると多職種です。働く時間もフルタイムから週に数時間の有償ボランティアまで。子どもが小さいうちは短時間、だんだんに増やして10年後には責任あるポジションになるというパターンは少なくありません。シングルマザー、シングルファーザー、最初から介護職を目指した人、全くの異業種から来た人、定年後に資格取得して短時間働く人、30年前にボランティアグループを立ち上げたときからのメンバーから、入って半年の人、いろいろな意味で多様な人の集まりです。

入職は職員が知り合いを紹介してというケースが最も多いのですが、最近では大学や専門学校の新卒で入ってくるスタッフも。教育方針というほどのものではありませんが、「じっくり育ててもらおう」というのがえん流です。認知症グループホームに採用された場合、夜勤を1人で担当するまでには、未経験採用の場合は短くても半年はかけています。訪問介護は、ひとり立ちで利用者宅を訪問するまでに1か月間は先輩職員と同行して勉強してもらいます。法人全体・事業所ごとの研修(介護実技、制度学習等)、ミーティングは何より大切にしてきました。

えん通信で3号続けて「国会集会」等の参加報告が載っています。若手の職員に積極的にこのような場に出てもらい、近い将来に介護の現場から発信できるように育てたいという気持ちからです。この辺は他の事業所にはない特徴ですね。

今どき定着率がとても高いところを見ると、代表の私が言うのも何ですが「悪くない職場」と自負しています。

(代表理事／小島美里)

